

屋久島(宮之浦岳) & 開聞岳山行報告

【山行日】2022年 11月 3(木)~7(月)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】交通費他 : 114,300円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬

石澤、小林

11月3日(木) 晴れ後曇り後雨

羽田空港から鹿児島空港経由して屋久島へ

岩舟支所P4:00=つばさパーキング 5:20=

羽田空港 5:30/6:40→鹿児島空港 8:35/9:00

=トッピー乗船場 9:40/10:20~~宮之浦港

13:05/13:10=千尋滝 13:50/14:20=

紫水館 14:40



屋久島宮之浦岳と開聞岳に登りたいというリクエストがあり、3年ぶりに2座に登る計画を立てた。いつものようにつばさパーキングに車を預け、羽田空港出発ロビーまで送ってもらう。搭乗手続きを



行ってからロビーで朝食を食べ、定刻通り羽田空港を出発した。鹿児島空港に降り立ち、高速船乗り場まで高速バスの時間が合わず、タクシーに乗って種子・屋久高速船旅客ターミナルまで行く。

高速船旅客ターミナルで乗船券受付を済ませ、売店で昼食のサンドイッチやパンを購入し乗船する。

定刻に出発し、桜島を見ながら穏やかな鹿児島湾を進み、開聞岳や佐多岬を見送ると外海に出て行く。

外海に出ると海面しか見ることが出来ず、単調な航

行に眠ってしまった。種子島に寄ってから屋久島に向かい、2時間45分の航行でようやく安房の港に着く。港を出るとタクシーの運転手さんが「鈴木様」の札を持って待っていてくれた。3年前と同じ

運転手さんだったが、我輩のことは覚えてない

ようだ。鹿児島を出るときは晴天だったが、屋久島は雨が降ったようで道路が濡れていた。

いつものように千尋ノ滝に向かってもらい、運転手さんとお話するとようやく思い出したよう

だった。千尋滝の途中にある竜神の滝で車を止め、橋の上から滝を眺める。

そこから狭い間道に入り、数分で千尋滝駐車場に着く。駐車場から少し戻り右に遊歩道を下

ると、千尋滝の全景が見られる展望台に出る。花崗岩の谷間を鯛之川が流れ、花崗岩の断

崖を豪快に落ちる千尋滝の様子が一望できる。



記念写真を撮ったら駐車場まで戻り、トイレや売店の脇を進むと千尋滝展望台に出る。こちらは滝をより近くから望め、花崗岩の断崖を流れ落ちる千尋滝は豪快かつ巨大な瀑布である。少し雨粒が落ちて来て、売店に入って土産品を見て回る。駐車場に戻り、宿に向かう途中、猿川のカジュマルへ寄ろうとしたが、雨が止まないのもそのまま宿に向かった。今宵の宿「紫水館」は、お酒は近くの酒屋が親戚なので、そこで買って自由に飲んでくださいとのこと。運転手さんが「その酒屋には、1本1万円以上するお酒があり、とても旨いとの評判である」と教えてくれた。宿に着き受付を済ませて説明を受け、2部屋に案内され荷物を整理して落ち着く。風呂が沸くまで2人で酒屋に行き、噂の古酒を買おうとしたらアルコール度数が37度と書いてある。日本酒で37度は非常に高く、「これを飲んだら明日登れないね」と諦め、屋久島の焼酎「三岳」の一升瓶とビールを購入した。4時から風呂に入り、風呂から上がった後早速反省会が始まる。女性達も風呂から上がって参加し、賑やかな反省会が続いた。6時から夕食になり、宿の方々が心を込めて作ってくれた料理を、美味しくいただいた。夕食が済んだら部屋に戻り、明日に備えて早めに床に就いた。

11月4日(金) 淀川登山口から花之江河を經由、宮之浦岳に登頂し新高塚小屋まで縦走する。

紫水館 5:00＝淀川登山口 5:50/6:05～淀川小屋 6:50/7:00～花之江河 8:30/8:40～投石平 9:40～宮之浦岳 11:15/11:45～三叉路 12:00～第二展望台 13:10/13:20～新高塚小屋 14:05

4日の朝は、宿泊場所『紫水館』にタクシーを5時に予約してある為、3時30分頃に起床する。



起床すると間もなく、K澤さんが、弁当屋さんが届けてくれた朝食を部屋に持ってきてくれた。袋の中をのぞくと各自2食分の弁当があった。朝食の1食分を頼んだつもりであったが、宿の手配違いで朝と昼の2食分が配達されたようであった。各自思い思いの量を食べて登山の身支度とトイレを済ませた。タクシーが到着予定の5時前に旅館の玄関先で待つと、タクシーが到着した。リックとバック4人分でトランクは一杯だ。5時に登山口へ向かって出発した。はじめは広い道路を

走って行ったが、徐々に狭い山道になり対向車とすれ違うこともできないくらい狭い道を通り続けた。十分に睡眠をとったはずであったが、車の適度な振動でみんなも眠気を誘われたようであった。約50分位走ると淀川登山口についた。登山口では、先に来ている人の乗用車やバイクが置かれてあり、登山客が多いことが予想された。トイレを済ませてヘッドランプを点灯し、6時5分に登山開始である。30～40分樹林帯を歩くと薄明るくなり木々の間から日が差してきた。ヘッドランプを外し、道の左右にある大杉を見ながら歩き続けると『淀川小屋』へ到着した。



ここで少休憩をとり次の目的地である『花ノ江河』へ向かった。途中では、山の山頂に大きな岩が



乗っている風景があちこちに現れて大自然の営みの凄さが実感できた。約40分歩くと木道が敷かれていて四季折々の高山植物がみられるという日本最南端の高層湿原である『花ノ江河』に到着した。生憎、高山植物は見られなかったが、空気が澄んでいて見渡す限り緑の山々に囲まれて素晴らし景色であった。更に歩き続けると山のあちこちに巨大な岩が乗った山が現れて、今にも落ちそうな、なぜその場所でとどまっているのか不思議な大きな岩々が見られた。『投石平』である。ここで小休止を

取り、行動食を食べて写真撮影をした。ここまで来る途中で多くの登山客に会ったが、淀川小屋では、小屋に泊まらずにテント泊の人たちが多く、新高塚小屋にも多くの宿泊客が押し寄せるだろう。と聞いて、果たして宿泊できるのか不安になった。投石平から山のあちこちにある数々の岩を眺めながら歩くこと約2時間、宮之浦岳が見えてきた。



山頂につくと多少の風はあるが快晴で、西側に稜線がノコギリ状の永田岳が見えて素晴らしい景色であった。屋久島の島のあちこちで降雨の確率が年間を通して約70%というこ

とであったが、今日は、稀にみる快晴でラッキーな日であった。

山頂で昼食を済ませると今日の宿泊場所が確保できるかどうか気がかり始め、急いで下山して新高塚小屋へ向かった。下りが得意の健脚組は、予定より約1時間早い午後2時に新高塚小屋に着いた。すでに先着組もいたが、空いているスペースに4人分の宿泊スペースを確保でき、ほっと一息であった。3時に着いた登山客で小屋は一杯になった。



持ち込んだ『すき焼き』を作り食べたが、寝床が確保できた安心感もあり格別に美味しかった。食器類を片付けて、日が沈む6時頃にはシュラフに入り、明日の天気も良いだろうなどと話しながら眠りについた。

11月5日(土) 新高塚小屋から感動の「縄文杉」と対面し、ウィルソン株を経て大株歩道に下り、楠川別れから太鼓岩に登り白谷雲水峡へ

新高塚小屋 5:50～高塚小屋 6:35/6:45～縄文杉 7:00/7:20～ウィルソン株 8:10/8:20～大株歩道入口 9:00/9:10～楠川分れ 10:10～太鼓岩 11:10/11:20～辻峠 11:30/11:50～白谷雲水峡 P13:20/13:40
＝紫水館 14:45

4:00起床、昨夜のすきやきの出汁で、S シェフによる雑炊をいただく(周りの皆さんに再びおい



しい香りだけをまき散らして)。

5:50新高塚小屋発、辺りはまだ暗く、ヘッドライトの灯りを頼りに高塚小屋に向かう。

6:40トイレ休憩後、高塚小屋発。

6:55縄文杉着。「なるほど、これが世界遺産のシンボルの一つである、憧れの縄文杉かー！！」と、交代で写真を撮りまくる。Hさんは思い切り抱き着いて写真を撮るつもりだったが、実際は杉の間近にある展望台から見るこ

ができる。まだ時間が早いため観光客は少なく、ゆっくり愛でることができた。

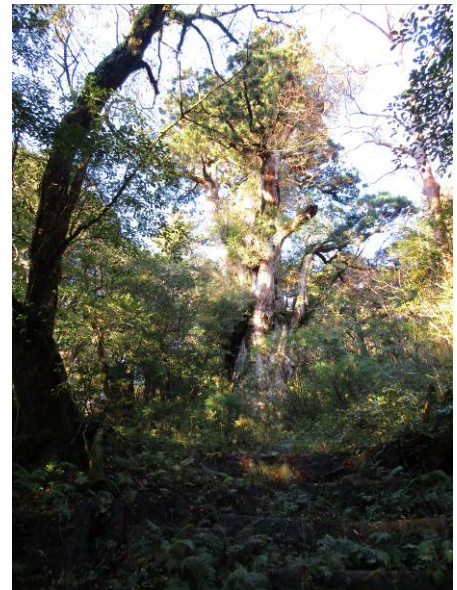
8:10ウィルソン株着。朽ちた株の中には清い泉が流れており、指定席の石に腰を下ろすと見事なハート形の空を望むことができる。

8:40大株歩道入口着。白谷雲水峡や荒川登山口からの、ガイドさんに引率された観光客で溢れ、トイレも長蛇の列。ここからはトロッコ跡に整備された木道を、反対側からの登ってくる大勢に観光客とすれ違いながら歩く。

10:00楠川分れ着。再び山道へ入って行く。

11:00辻峠着。ザックを下ろして太鼓岩へひと登りする。

昨日歩いた稜線や登頂した宮之浦岳が一望できた、絶



景！！辻峠に戻り、お湯を沸かして温かいスープとパンの昼食をいただく。

その後、くぐり杉や女神杉などの屋久杉や、映画『もののけ姫』に登場する森のモデルとされる「苔むす森」を見ながら下山した。

13:15バス停着。タクシーのお迎えで、屋久島でしか流通していない焼酎「愛子」や、さらにお土産を求めて、紫水館に戻る。

その夜は、屋久島夢まつりが3年ぶりに開催され、花火が上がった。安房川沿いの如竹通り

には多くの人出があった。

小林 記

11月6日(日) 宮之浦港から鹿児島へ戻り、レンタカーで長崎鼻を観光し休暇村「指宿」へ
紫水館 8:00=志戸子ガジュマル公園 8:40/9:10=宮之浦港 9:30/10:45~~鹿児島港 12:35=
ニッポンレンタカー13:00/14:00=長崎鼻 15:30/16:10=休暇村「指宿」16:40

今日は移動日なので、朝からのんびりペースで起床する。荷造りを済ませて7時に朝食



をいただく。朝食は昨夜女将と仲居さんが作りおいてくれ、テーブルに並べられている。その品数の多さにびっくりしたが、炊き立てのご飯と熱々の味噌汁で美味しくいただいた。8時にタクシーが迎えに来て、志戸子のガジュマル公園に向かった。志戸子海岸にあるガジュマルと熱帯植物が茂る公園で、ジャングルのような探検気分で歩ける公園である。30分ほど園内を散策し、食後の散歩に丁度よいコースである。ここから宮之浦港

まで送ってもらい、ここで川東運転手とお別れする。4日間我々の要望通りに付き合っ

ていただき、本当に感謝の言葉しかない。

宮之浦港を出港し鹿児島港に着き、ニッポンレンタカーを探すが見当たらない。TELすると人手が無く迎えに行けないと言われ、タクシーで向かった。レンタカーの手続きを済ませ、隣の「黒カツ亭」で昼食を済ませる。

人気の店だが丁度空いていて、黒豚のカツを美味しくいただいた。ここからレンタカーで長崎鼻に向かい、南国情緒いっぱいの道路をドライブし長崎鼻の駐車場に着く。いつものようにオジサンに止められ、オジサンの自転車の案内でお土産店の駐車場に車を止



める。帰りに何か1品お土産を買えば、駐車料気は無料と言うシステムだ。長崎鼻は薩



摩半島の先端に突き出た岬で、浦島太郎がここから竜宮城に向かったという伝説の場所である。まずは乙姫様を祀った竜宮神社に寄り、そこから海岸へ向かう道は海に浮かぶ開聞岳の絶景を見ながら歩く。この先の真白い灯台は『恋する灯台』と呼ばれるそうで、この白い灯台と波しぶき、青い海と空、海に浮かぶ秀峰「開聞岳」とロマンチックな雰囲気漂っている。

海に突き出た岩場を歩いて先端まで行き、明日登る開聞岳に挨拶して引き返した。



ここから今宵の宿休暇村「指宿」に向かう。休暇村「指宿」に着き、受付を済ませ部屋に案内される。指宿と言えば名物の「砂蒸し風呂」である。

もちろんオプションで追加し、皆で「砂蒸し風呂」を楽しんだ。最後の夕食は少し豪華で、お造りやブリしゃぶ、天ぷらなどに、ビュッフェで好みの惣菜やデザートをいただいた。ビールや地酒も美味しく、全国旅行支援の恩恵にも授かることが出来た。

夕食が済んだら部屋に戻り、明日の早出に備えて早めに就寝した。

11月7日(月) 開聞岳に登り鹿児島空港から羽田空港へ帰り帰宅する

休暇村「指宿」5:50＝ふれあい公園 6:15/6:30～二合目登山口 6:45～五合目 7:30～七合目 8:00～開聞岳 8:30/8:50～七合目 9:40～ふれあい公園 10:40/11:00＝鹿児島空港 15:50/17:20→羽田空港 18:50/19:30＝つばさパーキング 19:50＝岩舟支所 P21:50

開聞岳登山→池田湖→「山川港活お海道」道の駅→知覧武家屋敷庭園→鹿児島空港→羽田空港

山行最終日は、日本百名山の「開聞岳」に登りました。当初の計画より30分遅い 6 時に宿を出発。生憎の曇り空、好転を期待し麓のふれあい公園 P に駐車。園内の歩道を15分程度歩くと登山口に着きます。開聞岳は筑波山位の標高ですが、上部が少し反りあがった円錐形の山で、田園風景の中にドーンと居座っていて、地元のシンボルの山なのだなーと感じました。

小石が混ざったざれ道を、逆「の」の字に巻き



ながら登っていきます。5合目は展望もよくベンチもあるので小休止、池田湖や長崎鼻が見えました。7合目辺りからは噴煙を上げる硫黄島が見えましたが、残念ながら少し雲があり、屋久島は見えませんでした。この辺りからは大きな石がゴロゴロ、少し急登になり梯子やロープも幾つかありました。それでも皆快調な歩きで、予定より早く山頂にたどり着きました。山頂は木々が茂り狭いけれど、他に登山者もいなかったの、石に腰掛け

菓子や果物をいただき、眺望を堪能し、池田湖をバックに記念写真を撮りました。

下山は登ってきた道をピストンで下ります。この時間になると、平日にもかかわらず多くの登山者に



出会いました。今日帰る私たちと違い、地元の方々はゆっくりスタートでも十分な山なのです。

下りも快調な足並みで、これまた昼食には早い時間に下山したので、「美味しいご飯を食べたい」という事になり、指宿に戻り、案内板を頼りに漁港の近くの「山川港活お海道」道の駅に行きました。お勧めランチをほおぼり、お土産も買って皆大満足です。

さあ次に目指すは、山頂から見えた「池田湖」。30数年前、恐竜がいたとかいないとか「イッシー君」で一躍有名になったそうなおしゃれカフェと

イッシー君の像が印象的でした。

指宿スカイラインで空港へ直行のはずでしたが、時間もありませんさんの計らいで、「知覧武家屋敷庭園」を観光しました。

江戸時代の薩摩の麓の典型的な武家屋敷群で、島津藩の分家佐多氏の武家屋敷は、琉球庭園文化の影響を受けた造りになっているそうです。

空港への指宿スカイラインからは、桜島が良く見えました。空港の展望デッキからは、韓国岳や霧島連峰が連なって見え、いつか登りたいと思いをはせました。

最後の最後まで鹿児島を堪能し帰路につきました。

5日間天候に恵まれ、屋久島宮之浦岳・開聞岳山行を終えることが出来ました。計画から旅券・宿の手配、山小屋での食事に至るまで、会長には大変お世話になりました。山は元気に愉快地に、宿では湯で疲れを癒し酒でほろ酔い、今回のメンバーの皆様、楽しい時間ありがとうございました。

by S・K



